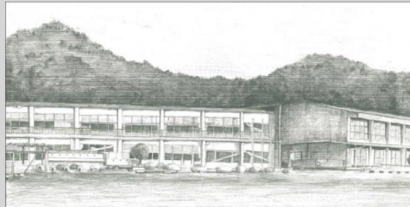


まるやま



2019年度
森町立天方小学校
令和元年12月2日

NO.9

考え、行動するということ～絵本「二番目の悪者」から～

「11月19日(火)会礼の話」

今回は、この本の読み聞かせから始めます。まずは、お話を聞いてみてください。

～「二番目の悪者」(林 木林作・庄野ナオホコ絵)～

みごとな金色のたてがみをもつライオンがいた。

「金のたてがみで生まれた私こそ天に選ばれしものなのだ。」と思っていた。

その頃、この国の王様はたいそう年老いてきた。自分の死が近いことを知ると、次の王様を国民できめるようにおふれを出した。

金のたてがみのライオンは、「私こそが、王になる資格をもっている」と胸を張った。



しかし、その頃、街では銀色のたてがみをもつライオンが候補に挙がっていた。

銀色のたてがみをもつライオンは、誰にも優しい立派なライオンで、街の人たちは、銀色のライオンこそ、次の国王にふさわしいと考えていた。

金色のたてがみをもつライオンは、自分が国王になるために、来る日も来る日も、銀色のたてがみをもつライオンの悪いうわさを流し始めた。

始めは信じなかった街の人たちも、同じ噂を知っているだけで、だんだんと銀のたてがみをもつライオンのことを疑うようになってきた。

そして、国王には、金色のたてがみをもつライオンになった。

金色のたてがみをもつライオンは、好き勝手に国を治め、国はたちまち荒れ果ててしまった。

.....



さて、このお話に出てくる一番の悪者は、誰でしょう。

金色のたてがみをもつライオンですね。では、この本の題名にもなっている二番目の悪者ってだれのことでしょうか。

そう、二番目の悪者とは、確かめもせず、考えもせずうわさを信じてしまった街の人たちのことなのです。

人のうわさを信じるのではなく、自分で考えるということが大切です。

自分で考える、ということはみなさんががんばっている「プラス1」のもとです。

難しいことでなくていいです、一人ひとりができる「プラス1」は、たくさんあります。ゴミ一つ拾うのも自分で考えてゴミを拾っていると思います、雨が降ってきたときに揚げられている校旗を降ろすのも考えて行動しています。日々の中でできる「プラス1」を積み重ね、考える人行動するひとになってほしいと思います。

以上で、校長先生のお話を終わります。

今は、いろいろな情報が洪水のように流れ込んできます、しかし、その情報は本当でしょうか。そんなことを考える間もなく、人々は鵜呑みにしてしまう。情報の流れ方次第で、黒が白になってしまう危ない時代だと思っています。

そんな時代であるからこそ、子供たちには、まずしっかり考えることそして、その上で行動することを身に付けること、それが必要であると思っています。それが「プラス1」です。